

小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2021年10月から12月
2. 調査対象：小樽市内の企業272社
3. 内 訳：製造業62、卸売業27、小売業44、運輸・倉庫業20、観光業46
サービス業39、建設業34
4. 回答企業数：181社（66.5%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

概 況

— 社会経済活動の再開により業況は改善するも、原材料費の高騰が足かせに —

前年同期（2020年10月～12月）と比べた今期（2021年10月～12月）の状況
今期と比べた来期（2022年1月～3月）の予想

企業の景況感を示す業況判断DIは▲18.0で、前年同期と比べ18.8ポイント上昇しました。緊急事態宣言等の全面解除によって社会経済が動き出したこと等により、運輸・倉庫業を除く各業種で業況判断DIが上昇しており、サービス業ではプラスに転じました。原材料価格や仕入価格、燃料費の高騰が各業種の主要な課題です。

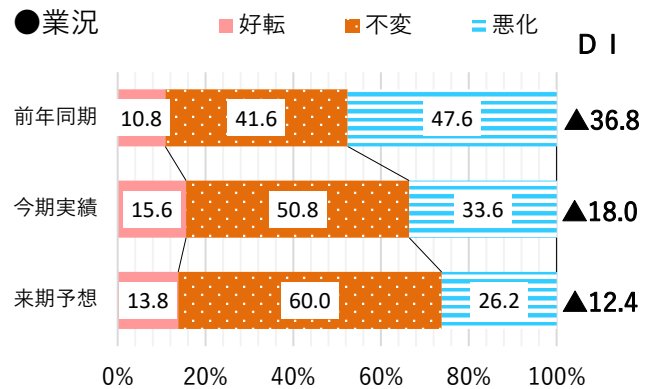
業種別DIは、製造業が同20.8ポイント上昇の▲11.8となりました。売上DIが大幅に上昇し、設備操業率DIと引合いDIがプラスに転じる等、好転傾向が見られましたが、8割超の企業で仕入単価が上昇しました。卸売業は同38.9ポイント上昇の▲11.1となりました。仕入単価DIの上昇が顕著ですが、売上DIと売上単価DIも大幅に上昇し、採算DIはプラスに転じました。小売業は同5.7ポイント上昇の▲14.3となりました。客数の減少傾向は大幅に緩和されたものの、客単価DIのマイナス転化や、仕入単価DIの大幅な上昇等が、採算の悪化傾向を強めました。運輸・倉庫業は同13.2ポイント低下の▲44.4となりました。昨年同期は旅客運送の全社、貨物運送の8割弱の企業で売上が減少しましたが、今期は両業種とも約半数の企業の減少にとどまりました。倉庫は回答に占める売上の不変、減少の割合が4割強から7割弱に増加しており、在庫量の減少と、保管残高の大幅な減少の影響が推察されます。観光業は同39.4ポイント上昇の▲42.9となりました。業況判断DI、売上DI、採算DIいずれも上昇しましたが、全てマイナス水準にとどまりました。利用客数の減少傾向は大幅に弱まり、客単価はプラスに転じましたが、仕入単価の大幅な上昇や、急激な需要回復に対し従業員の確保が追いつかない状況が見られます。サービス業は同49.3ポイント上昇の16.0となりました。緊急事態宣言の解除により、客数が回復傾向にあります。業況判断DI、売上DI、利用客数DI、資金繰りDIがプラスに転じ、好転傾向が見られます。建設業は同9.4ポイント低下の▲17.4となりました。業況判断DI、売上DI、採算DI全てが低下しました。材料仕入単価DIの上昇が顕著です。資金繰りDIのマイナス水準への低下や従業員不足等、厳しい状況にあります。

来期の業況判断DIは▲12.4で、悪化傾向が続くと予想しています。小売業と観光業では、業況判断DI、売上DI、採算DIの上昇を予想していますが、他業種では概ね現状維持または低下を予想しています。仕入価格の高騰や、新型コロナウイルスの再流行による経済の停滞が懸念されます。

業況、売上、採算

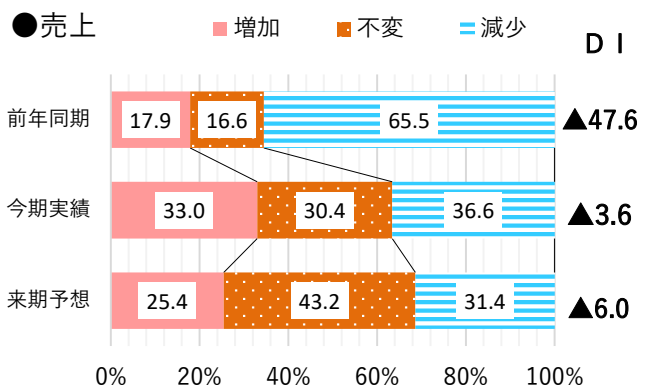
今期（2021.10～12）の業況判断DIは▲18.0で、前年同期(2020.10～12)と比べ18.8ポイント上昇しました。

来期（2022.1～3）は、業況の悪化傾向が続くと予想しています。



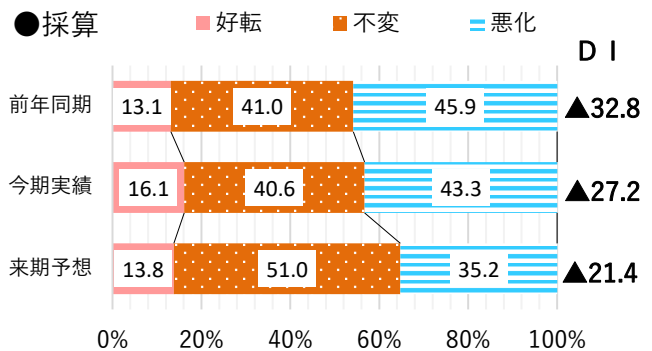
今期の売上DIは▲3.6で、前年同期と比べ44.0ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、売上の減少傾向が続くと予想しています。

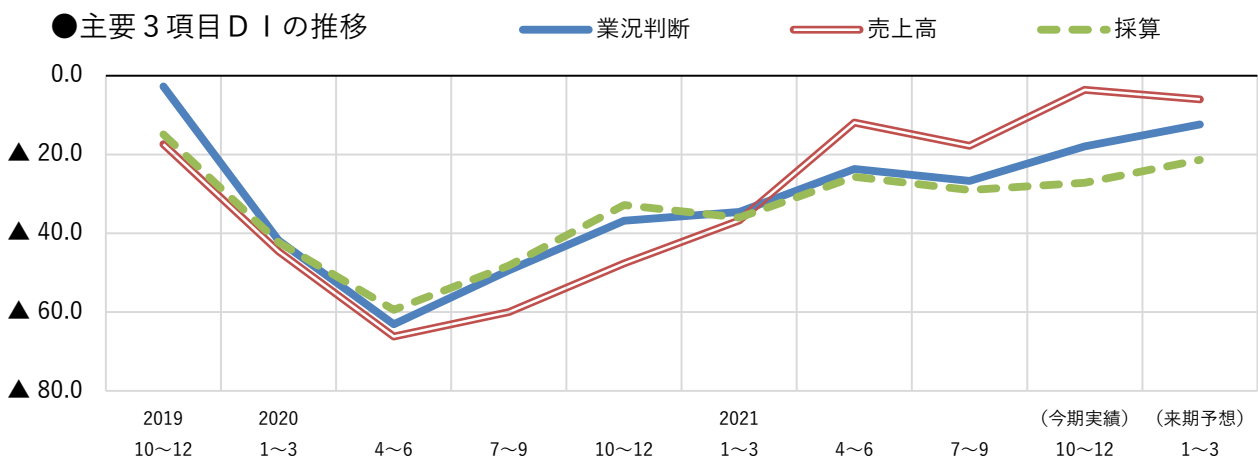


今期の採算DIは▲27.2で、前年同期と比べ5.6ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



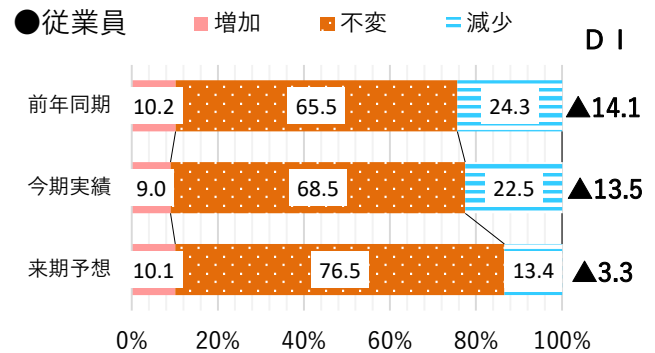
●主要3項目DIの推移



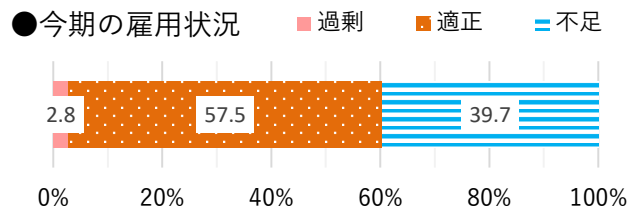
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲13.5で、前年同期と比べ0.6ポイント上昇しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は2.8%、適正であると回答した企業の割合は57.5%、不足していると回答した企業の割合は39.7%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、全業種の44.7%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	12
	不足	4
不変だった	過剰	2
	適正	81
	不足	38
減少した	過剰	4
	適正	10
	不足	30

資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲6.6で、前年同期と比べ8.8ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が強まると予想しています。

新規設備投資の動向では、回答のあった181社の37.0%にあたる67社が実施、前年同期と比べ2.3%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、2位が「OA機器」の順です。

来期は、33.7%にあたる61社が設備投資を計画していると回答しています。

